



電池等小さな部品のパッケージまで豊富なラインアップ

環境、情報、コスト削減

時代のニーズをパッケージ



梅田真空包装株式会社

総アイテムは数百種類

私たちが日頃手にしている日用品や電化製品等のパッケージの多くを製造しているのが梅田真空包装だ。創業以来、包装一筋、現在は月平均100社と取引をし、総アイテムは数百種類を超える。

パッケージは商品を保護するだけでなく、包装デザインによってユーザーの購入意欲をかきたてる役目を持つが、最後には捨てられてしまうもの。「当社はその捨てられるものを作っている会社ということになります。それならば、少しでも環境に優しいものを作るべきだと考えました」と語る梅田貴生社長。

同社では15年程前から環境問題に取り組んできた。平成17年から、植物から製造された「ポリ乳酸」を原料とする、植物系生分解性プラスチックでのパッケージ加工を行っている。石油原料を使わず、CO₂の排出が少ない、廃棄後は水と炭酸ガスに分解されるなどのメリットがある。



業界では他に扱っていないところがない、同社オリジナルの加工法だ。またクリアカバーと台紙を同じ素材にする「ワンマテリアル・プリスターパック」はゴミの分別が不要で、環境負荷の低減に貢献できるため人気が高い。これらは価格が高くなるが、自社のイメージアップのために採用する企業が多い

という。

平成20年に特許を取得した「電子部品用組立式成形トレー」は、少スペースでも数多くの装填が可能。部品の大きさに合わせて、オーダーメイドで仕上げる。部品輸送時は組み立てて使い、輸送後はたためるので無駄な輸送コストを削減できるというメリットがある。

こうしたアイデアは顧客とのやり取りの中でひらめいたものだ。

情報セキュリティも万全
一貫生産・短納期で信頼獲得

パッケージは発売前の商品を扱うため、企業情報の保護には最大限の神経を使う。そのため、平成20年には情報セキュリティのマネジメントシステムに関する国際標準規格、ISO27001の認証を受けた。企画段階から企業とかわるため、完成までに3年を要することもある。その間、企業秘密の漏洩がないよう、万全の体制で臨んでいるのだ。

梅田社長は「金型や成形機、オフセット印刷機、パッケージライン、資材倉庫まで持っているのが、当社の強みです。依頼から完成まで、2週間でやっつけしまうこともあります」という。

企画、デザイン印刷、包装から資材管理まで一貫体制で取り組めるシステムは、同業企業の中でも類を見ない。完成まで社外に商品が出ないため情報保護ができる、印刷ラインが充実しているので短納期にも対応できるなど、そのメリットは多い。

大口の受注や、企業の新商品発

売に合わせて短期間での包装依頼もこなす等、無理が言える会社として信頼を得ている。多い時では1社当たり600品種の商品を管理。メーカーが開発した商品が世に出るまでの、すべての段階の面倒を見ているのが、梅田真空包装なのだ。売上が年3〜5%の伸びを示しているものも少なくない。

「環境に優しく、なおかつお客様に喜ばれるものを作り続ける」梅田社長の言葉に力がこもった。

梅田真空包装株式会社

Company Profile

住所 〒577-0032
大阪府東大阪市御厨3-9-28
創業 昭和38年 3月
設立 昭和47年 4月
資本金 1,000万円
従業員 153名 (平成21年1月現在)
TEL 06-6782-0661
FAX 06-6782-0667

ISO 9001
ISO 14001

関西 19

<http://www.uvp.co.jp/>



梅田貴生さん
代表取締役社長

主な事業内容

クリアケース、透明包装容器、食用包装容器、弱電用ロボット作業トレイ、植物系生分解性プラスチックパッケージ、電子部品用組立てトレーの製造等